

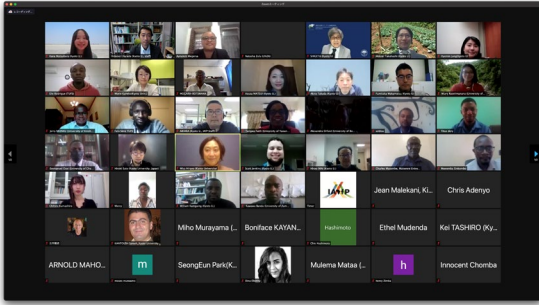
1. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【京都大学-東京外国語大学】

【事業の名称】(採択年度 2020年度 タイプA)

アフリカにおけるSDGsに向けた高度イノベーション人材育成のための国際連携教育プログラム

■ 交流プログラムの実施状況



〈第1回国際合同コンフェレンス参加者集合写真(2021年3月19日)〉

- ・アフリカの大学から2名の学生を受け入れ、オンラインでの短期集中プログラムや日本語・日本文化の理解のための交流ツアーを実施した。
- ・2021年3月19日に国際合同コンフェレンスを京都大学がオンラインで開催し、計13カ国14大学から79名が参加した。発表者について、一定の基準を満たすと認められた学生にCertificateを授与した。
- ・2021年3月25日に国際合同コンフェレンスを東京外国語大学がオンラインで開催し、アフリカと日本から70名以上が参加した。アフリカ大学紹介、東京外大への留学学生による体験発表を実施し、東京外大学生20名、アフリカからの学生6名の体験記を冊子化し活用、またWeb上で広く公開した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、初年度は日本人学生を渡航させないこととしたが、第1回の国際合同コンフェレンスでは、**京都大学の3名の大学院生がアフリカのSDGsに関する多様な研究内容について発表し、討議をおこなった。**2回の国際合同コンフェレンスには多数の日本人学生が参加し、オンラインでの学生交流がおこなわれた。

○ 外国人留学生の受入

関連事業によって、**プロテスタント人文・社会科学大学(ルワンダ)から2名の学生を受け入れた。**これらの学生に対して、オンラインで2020年度冬季短期集中プログラム(日本語集中授業[初級・中級]、日本語・日本文化の理解のための交流オンラインツアー[広島・瞑想・沖縄])を実施し、参加学生の日本への文化を深め、日本とアフリカの共創によるイノベーションを実現する次年度以降の人材育成の先例とすることができた。

	R2	
	計画	実績
学生の派遣	0	0
学生の受入	2	2

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・アフリカの14大学の内13大学と連絡を開始し、学生交流協定の締結に向けた協議を開始した。5大学と、協定校別の学生交流の説明会を順次実施した。これより、担当者間の連携が強化され、事業計画を深化させることができた。13大学との大学別協議において、学生交流協定の締結と大学間協定に基づく単位互換制度を積極的に推進していくことを相互に再確認した。さらに、**ステレンボッシュ大学(南アフリカ)と新たに国際学術交流協定を締結した。**

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・本事業の事務局担当者として、京都大学において本事業専任の時間雇用研究員を3名、事務補佐員を1名、および東京外国語大学では本事業専任の特任助教(コーディネーター)を1名、事務を補佐する特定専門職員を1名採用した。

・**京都大学および東京外国語大学内に事務局機能を有する場所を設置した**ことで、学内の多他部局に渡る関係教員の連携が強化され、複数の部局にて派遣・受入される学生の連絡・相談窓口として学生を支援する体制を整えることができた。遠隔教育用情報機器の整備により、派遣・受入後の学生の教育を円滑に実施するための基盤を整備した。受入学生に対しては、保険加入等の事務手続きの個別サポートを行った。また、派遣学生に対しては、危機管理費及び危機管理体制の案内等、危機対応に関する情報提供を行った。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開、成果の普及

- ・本事業の情報を集約したウェブサイトの日英で開設し、SNSを積極的に活用しつつ、国内外の日ア学生交流に関係するステークホルダーへの情報の公開と国際合同コンフェレンス等の本事業の成果の発信・普及に努めている。
- ・アフリカでの研究経験があり、英、仏、あるいは現地語の高い運用能力を有するスタッフを雇用し、現地向けの情報発信力を強化した。
- ・**京都大学のアフリカオフィス(エチオピア)および東京外国語大学のGlobal Japan Office(南アフリカ)及びGlobal Japan Desk(ルワンダ)と連携し、今後の事業の実施体制を整えた。**



概要

大学の国際化推進事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル化能力の向上を目指し、国際化推進の基盤を固めながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の留學の両面から行う事業推進、地域の大学との国際連携推進の推進を支援することを目的として、文部科学省において2011(平成23)年度から開始された事業です。これまでに、アジア、中南米、欧州、ASEAN等が展開されてきました。

■ グッドプラクティス等

〈本事業の情報集約・発信のための日本語・英語のホームページの開設〉

2件の国際合同コンフェレンスにアフリカの13カ国14大学を含む合計150名ほどがオンラインで参加したことで、オンラインならではの大規模・多国間による交流を実現することができた。関連事業によって2名の学生をアフリカから受け入れ、オンラインで冬季集中プログラムに参加させ、単位を付与した。